

2013年6月3日
イオン株式会社

マレーシアにおける製・配・販の持続的な発展に向けた枠組み構築に向けて
イオン、UNIDO、マレーシア政府による共同プロジェクトを開始

イオンとUNIDO（国際連合工業開発機関）は、マレーシア政府の支援のもと、マレーシアにおける第一次・第二次産業の生産者の発展に寄与するべく、安全で持続可能な原材料調達、商品調達のための枠組みを構築する共同プロジェクト「持続可能なサプライヤー発展プログラム（SSDP：Sustainable Supplier Development Program）」（以下、当プログラム）を6月から本格的に開始します。これは、アジアの小売業として初の取り組みとなります。

当プログラムは、官民パートナーシップに基づく、グローバルレベルでの食品安全の継続的改善を使命とするGFSI（Global Food Safety Initiative）の活動の一環です。東南アジアにおける小規模サプライヤーの食品安全・品質管理の能力向上を図ることにより、持続的な発展に貢献することを目的としています。

具体的には、GFSIが開発した小規模サプライヤー向けの食品安全プログラムを導入し、グローバルレベルでの食品安全基準の実現をめざします。UNIDOは導入に関する専門家の派遣を、イオンはグループ企業のイオンマレーシアが主体となって食品の品質管理の指導やスケジュール管理を行います。また、イオングループの品質管理を担う（株）生活品質科学研究所がプログラム内容の検証を行います。

当プログラムの推進により、マレーシアの消費者にとっては、従来にも増して安全で安心な食材をお求めいただくことが可能となります。また、マレーシアのサプライヤーにとっては、世界水準の安全性を担保した食品供給を実現することで、イオンのみならず世界の小売企業との取引拡大、他国への輸出機会拡大へと結びつくことが期待されます。

イオンにとっては、イオングループ中期経営計画（2011年度～2013年度）で掲げている「アジアシフト」を推進する中、マレーシアをはじめとするアセアン各国で販売するイオンのブランド「トップバリュ」の開発をはじめ、お客さまに「安全・安心」でお求めやすい食品を継続的に供給することが可能となります。

イオンとUNIDOは、マレーシア政府とともに当プログラムを積極的に推進し、マレーシアにおける製・配・販の持続的な発展、ひいてはマレーシア経済の発展に寄与してまいります。

【ご参考】

「国際連合工業開発機構（UNIDO:United Nations Industrial Development Organization）」について（UNIDO ウェブサイトより抜粋）

1966年に国連の一部局として発足し、1985年に第16番目の国連専門機関として独立しました。加盟する173カ国の政府とともに、急速にグローバル化が進む今日の世界情勢の中で、開発途上国や市場経済移行国の経済力の強化と持続的な繁栄のための工業基盤の整備を支援しています。

オーストリアのウィーンに本部を置き、世界31カ国に地域事務所、18カ国にUNIDOデスク、9ヶ所の投資・技術移転促進事務所を設置しているほか、業務に応じたさまざまな形態の事務所を通じて、フィールドでの活動を行っています。

GFSI（Global Food Safety Initiative）について（GFSI ウェブサイトより抜粋）

食品事故が相次いで生じる中、食品安全に取り組むことの重要性に同意した小売業やメーカーのCEOらによって2000年5月に設立されました。以来、各専門家が様々なテクニカル・ワーキング・グループで、食の問題解決に取り組んでおり、最近の活動としては、飼料や搬送、包装にいたる食品サプライチェーン全体を網羅する食品安全要求事項の定義付けに取り組んでいます。

